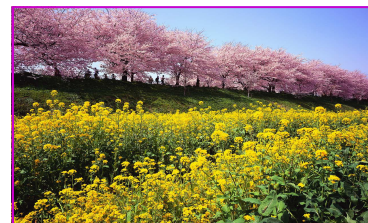


筑



女



春 2012年

第3号

1 ページ:

*精華会アメリカ支部からのご挨拶とご通知及び、第一回総会ご報告。

*精華会米国支部会員各“日本と私”寄稿

2 ページ、3 ページ、4 ページへと続く。

2012年の主な事柄

*精華会アメリカ支部便り第3号を3月頭に仕上げ、3月中旬に全会員、精華会事務局へ郵送する。

*精華会アメリカ支部の案内が日系ニューヨーク便利帳に掲載される。

*2014年第二回精華会アメリカ支部総会会場を今年末までに決定する

*2013年春発行アメリカ支部便り第4号のテーマを年末までに決定する。

*筑紫女学園精華会のウェブアドレスは
<http://www.seikakai.com>

*プログラムの案、会に対してのご意見、下記までご連絡下さい。

machikofa@gmail.com
360-652-6938 (night)

Dear Chikujyos,

いかがお過ごしですか？ 今年も元気にいきましょう！暦の上ではもう春なのに、又、雪とは。でも、春はもうそこまで来ています！

去年は、東日本大震災に始まり終わった大変に心痛な年でしたが、早や一年が過ぎようとしています。被災地の復興がさらに進みますよう祈っています。

さて、去年の精華会アメリカ支部のハイライト、第一回総会は予定通りに10月29日(土)ホノルルのワイキキビーチ沿いのプリンスホテルにて催され、少女に戻ってはしゃぎ、和気藹々と交流を楽しみ盛会に終了しました。ホノルル在住のSullivan 玲子さんがハワイヤンスピリットで、懸命に幹事の大役をお務め下さり、又、遠いところをお出かけ下さった日本とアメリカからの会員の方々に心から感謝致します。皆様のサポート無しには実現、成功なりませんでした。本当にありがとうございました！

今年に総会はありませんので、ごゆっくりして下さい。次回は2014年でいかがでしょうか？私が幹事しますという方は今年末までに、私共までお申し出下さい。来年の2013年は、その準備期間になります。

それと第4号のテーマはどうしましょう？これも今年末までをお願いします。今回もスペースに問題があり、長過ぎた文章は少々省かせて頂きました。次回からは、お一人500文字前後までぐらいの目安と致しましょう。

精華会アメリカ支部便り第3号は、

日本と私

がテーマです。このトップの雄大で神々しい富士山は、イタリア在住純子さんの息子さんが、飛行機から撮った素晴らしいショットです。使わせて頂いてありがとうございます。

お忙しいところ、ご寄稿して下さいました会員の皆様のチームワークに心から感謝致します！私達一人一人のメッセージを伝え共有する事は意義ある事だと思えます。

2年前に立ち上げました精華会アメリカ支部も、お蔭様で3年目を迎える事が出来ました。これもひとえに会員の皆様、又、精華会のご支援の賜物、ありがとうございます。今後も、この広大な大陸アメリカに長く細く筑女の灯火を絶えささないよう努力し頑張っていきたいと思えますが、皆様のチームワークなしには持続は出来ません。引き続き、皆様お一人お一人のご協力とご支援の程、どうか宜しくお願いします！新期2012年・2013年が始まり、2年分の会費10ドルもほとんどの方から受け取りましたが、まだの方は私共まで郵送下さい。領収書は、この精華会アメリカ支部便り、精華会日より、筑紫女学園報と共に同封致しておりますのでご確認ください。

Sullivan 玲子 (旧 安河内)

昭和45年卒 ホノルル

日本、福岡、、故郷を離れて20年まだ20年、、、もう20年、心の中では、人も風景も20年前の故郷。発展、開発続行の故郷は、訪れる度に、私を浦島太郎に、、、。懐かしい思い出と新しい世代が交差する、、、。何だか現実味のない空間世界。だけど、私の故郷、、、。土地も人も、優しい温もりを感じます。

国本嘉代子 (旧 藤田)

昭和21年卒 シカゴ近郊

いつも心の中で、私は日本人でいられる事に感謝の思いで一杯です。日本国籍はまだ持っています。仕事をシカゴでしていた折に、北朝鮮から亡命していた或る小児科女医さんから、“貴方は帰る国があつていいね”と云われ驚きました折、いつも日本人という枷を背負っていましたが“あつ、私には帰る国があるんだ”と思いつつ、その女医さんの帰る国がないという言葉に、彼女の悲しみを思い胸が痛みました。私は幸せ、又、日本人として生きていられる事の重さが、この事で国という事を身近に考えさせられました。

1979年〔40年前〕に日本よりアメリカへ参りました折、

“見てやろう、聞いてやろう、してやろう〔経験する〕”で意気込んで移住してきました。アメリカの国の広大さと、わずかカルフォルニアが入るぐらいの日本の国を知り、一生懸命に戦争を生き抜いて来た国を第三者の目で見る事が出来るようになりました。結論として、日本とアメリカを対等に見られる事と日本の良き事、悪しき事を第三者として見られる事に感謝し視野が広がった事と、私は日本人である事の幸せと誇りに喜びと感謝で過ごせる日々をしたいと努力しています。

日本の国歌、国旗は素晴らしいし、国事やオリンピック等それらを見ると涙が出てきます。日本の国の発展と国民の幸せを祈っています。

Faught 真知子 (旧 西田)

昭和43年卒 シアトル郊外

何か間の抜けたような四季のないカルフォルニアからワシントンへ移ってき、私が一番に感激したのは、自分の生まれ育った故郷、日本で見慣れ親しんだ四季折々の美しい植物が多く見られるという事でした。お久しぶりですと懐かしく、故郷に帰ってきたかのように安らかで温かく、リタイアの地に辿り着いたという感がありました。故郷と同じように、水仙、梅、桜で春を告げ、石楠花、ツツジ、菖蒲、芍薬、牡丹、百合と続くと夏は朝顔が。秋は菊、ススキ、そして、モミジや様々の落葉樹が赤、橙、黄色に紅葉していく様。そして、雪がチラチラ降る中に真っ赤に咲いた寒椿の冬で一年が終わります。古代昔から日本人は四季折々の自然の美しさを崇め愛で日々の暮らしに取り入れ、独自の美意識の一つであるワビ(侘)サビ(寂)の世界を造り出してきました。自然を素材とした日本庭園は、多くの外国人から親しまれ、世界の文化遺産と指定され、国を越え時代を越えて、簡素で静寂の美しさを湛え人々の心を癒しています。父母亡き日本は遠く、国籍が変わった今も、先人に導かれ、この四季折々の美しい自然の中に身を託し暮らせる喜びに感謝。日本は私の原点、ハートです。

尾西美紀子 (旧 田中)

昭和45年卒 シカゴ近郊

若い時は、米国の自然な広大さに目を見張り、自由な気質やドライな人間関係に心地良さを感じていたのですが、今は日本の自然や四季の変化の美しさに安らぎを感じ、日本人が持つ繊細さや遠慮深さに懐かしさを憶えます。又、時にはウエットな人間関係も悪くないと思う今日この頃です。

上野あたま (旧 吉田)

昭和19年卒 オレゴン州

昔、母の話ではごく幼少の頃に、家族一同一年程福岡に帰っていたそうですが、物心つく前なので、その後、12歳頃に再び家族一同で日本に帰ったのが、私には最初の日本との出会いでした。ハワイと違って、四季の変化がある日本は好きでしたが、自由におおらかに育ったハワイとは異なり、何事も規則で縛られ何もかもせせこましい日本には一寸うんざりでした。学校の授業もしかり。良い考えでも、その先生と考え方が違っていけば、結果的には同じでも、むしろもっと良くとも、それは許されなく、そんな中で、**私を後押しして下さったのが原先生でした。**センチメンタルな所もある先生は私が英文科に進む事に賛成して下さい、多くの女子高生が家政科に進む中、私一人英文学科に進む事を応援して下さい。だから、先生は何時までも私の心に残る方でした。戦争中は、丁度、長崎の原爆があり経験し、一度家に帰り、再び活水に戻り勉学に励み、卒業まで頑張りましたが、それも良い経験となり、色々良い勉強になったと思います。それで、今の私があるのです。日本は私に楽しい事ばかりではなく、様々な苦しみや体験を与えてくれ、色々な素晴らしい人との出会いを与えてくれ、今の私を作ってくれた思い出深い所です。

Vigneault 正子(旧 中牟田)

昭和44年卒 コネチカット州

留守のため、今回は失礼させていただきます。

守田秀子 (旧 井上) **新会員**

昭和46年卒 ニューヨーク州

今年で60歳になります。人生の半分をアメリカで過ごしています。アメリカに最初に降りたのは、南米に行く途中に寄ったロサンゼルスで、プレイボーイクラブで見たパニーガール、クラブの広さ、ここで見たロスの夜景はアメリカ大国のパワーを肌で感じた瞬間でした。これがアメリカ！十年後、NYへ、アメリカのインテリア勉強？知り合いに連れて行ってもらったパーティはコロンビア大学のドナルドキーン氏の自宅で、私はそこで日本語の美しさをまざまざと知りショックでした。彼らの話す日本語は、美しい蒔絵の紐解き流れだすような響きの品格。日本人である私は日本語の美しさに引き込まれました。私、日本人なのに！恥ずかしい！目的のインテリアデザインにパーソンズデザインスクールへ、ここでも多くの教授の方々が日本建築の美空間の取り方に憧れていらっしやる事を知り、私は何を学びにアメリカへ？当時、日本のデザインは新しいデザイン革命でした。日本人である私はここでも、日本を意識する事になりました。卒業してアメリカの会社で働いてみたくてバイトで入った会社、何となく日本の会社との架け橋になり、正社員に。NYの会社仕組みや人間関係を経験出来、日本人一人頑張りました。世界中の人々と楽しみを共有する事が簡単に出来たのがアメリカです。色んな方と知り合いになり、色んな経験が出来た事は本当に人生の宝です。この様な経験が出来たのは、日本人であった事日本のカルチャーがバックにあったからだと思います。差別、反日感情もある事実を見れた事も良い経験です。何よりも日本を学べた事は、日本と距離を置いて見れた事でしょう。**時代が大きく変わり始めましたが、だからこそ、私は日本人のプライドを持って生きて行きたいです。**

Havens 節子 (旧 久世)

昭和31年卒 メリーランド州

満州は大連市で生まれ、八年後、日本に引き揚げ船で帰って来て、北九州、佐賀、福岡東京と転々として約20年。その後、アメリカに住む事になり40年余り、今はアメリカ市民権を持つアメリカ人です。“故郷は何処ですか？”と聞かれて返事に困ります。しかし、アメリカ人に“Are you Chinese?”と聞かれて“No, I am Japanese.”と答えて

いる自分がいる。又、去年の東北地方の大地震及び津波のニュースをTVで見ている、涙があふれ、身体が震え“**日本人ガンバレ**”と応援している**自分がいた。**やはり、私は日本人だ。そして、日本人である事を誇りに思っている。

Ganung あずさ (旧 森)

平成06年卒 シアトル

去年の秋、4年振りに弟の結婚式で日本へ帰りました。今回の旅行は移動が多く、大阪伊丹空港から、京都に一泊、滋賀を通り、岐阜で結婚式で2泊、その後、上高地、飛騨高山、白川郷へ一泊で家族旅行。そして、名古屋空港まで出て福岡へ。3連休だった事もあり飛騨高山は観光客で賑わっていましたが、地震の影響で外国人観光客が殆ど来なくなると、お土産屋の方が言っていました。4泊5日で6県も回った旅行は初めてでしたが、**私の名前の由来である上高地の梓川(あずさがわ)**も家族で初めて行く事が出来、とても心に残る旅行となりました。

Smith 洋子(旧 桑田) **新会員**

昭和50年卒 モンタナ州

日本語の教師をしており多忙にて失礼します。

Sulis 佐藤 純子 (旧 佐藤)

昭和43年卒 トスカナ州、イタリア

イタリア生活も30年過ぎ、益々祖国は遠ざかっていくこの頃で、今回2週間の日本帰国で疎遠になりかけていた親類との交流を持つ機会を得ました。母の妹、脳出血で明日の命をも知れなかった88歳の叔母は奇跡的な復活、いまだ輝く目を持つ叔母の見舞いが出来その叔母の自宅で、生前から私とも縁の深かった親族の3回忌があり、仏様が私達を呼ばれたに違いないと列席を乞われました。法要で気持ちの良い読経の後、柔らかい光の差すお座敷で美しい袈裟を纏われたお坊様のお話しに息子共々聴き入ったのでした。とても印象に残るお話の一つは“**お母さん私を産んでくれてどうもありがとう**”と母の前で改めて言ってみましょう、今の私にとって最も相応する言葉でした。認知症の母はその意味が分かったのか、何とも言えない顔をして涙溢れました。目の前にいる人誰にでも手を合わせ頭を下げる96歳になる母に、仏様を見るようでした。お坊様の言葉に促されて、心に染み入る美しい日本語を親不孝をし続けている私が大切な母に送る事が出来たのでした。帰国に同伴した次男は法事や父の墓参りでもお話を伺った寺のお坊様を通じて日本の習慣儀式に興味を抱き、又、神話の中に生きる日本の歴史というものに目覚めたようでした。縁が薄くなっていくかに思えた日本は、大きな手を広げて、この国は、貴方たちを見捨てたりはしないのですよと言わんばかりで、とても有難いメッセージを得た思いです。往きの飛行機から**富士山が、くっきりと光を放たつその神々しいお姿を現され迎えて下さっているのを感じ、何か意味ある思し召しのように**でした。体は祖国からどれほど遠く離れていても、日本という国は温かく、たおやかに、凜々しく、私達を深く見守り、帰国を喜んで下さっていると思われました。

鐘ヶ江美智枝 (旧 須佐)

昭和21年卒 コロラド州

福岡の天神町で生まれ近くの松屋デパートの玄関近くで石蹴り等して楽しんだ事を思い出します。然し、そのデパートも終戦の年の6月18日の空襲で炎に包まれ防空壕に逃れていた私達は近くの警察の地下室に再避難しましたが、この時に見たデパートの炎上する光景が長い間悲しい思い出となりました。終戦後、天神町も見事に立ち直りその炎上する光景も昔の思い出となりました。二世の主人が板付基地に駐留して居た時に結婚して59年になります。私はとてもラッキーで主人が調達部に居り日本語が話せたので28年間の軍隊生活の中で15年間ほど家族と一緒に日本とColorado Springs, Coloradoにある空軍基地に勤務出来た事です。一ドルが360円で交換出来た頃は、引退したら日本に住んでもいいねと話合ったものです。これも現在の交換率を考えれば昔の夢になってしまいました。主人が軍隊から引退してからは、毎年といっていい程日本に帰り楽しい3ヶ月を過ごしました。短い間に妹弟と逢えた事を楽しみ昔の友達に逢え、温泉旅行を楽しみ日本食の美味しさに舌包みをしたものです。然し、これも今では出来なくなりました。私も82歳になり足が弱くなり体調が思わしくなく外出は車椅子の世話になっております。空港での乗り換え、税関の検査等々考えただけでも今の所旅行は到底出来ません。日本は何と云っても私の故郷、何時かは亦、必ず訪ねる事が出来る事を祈っています

匿名

昭和52年卒 ニューヨーク

今、私の日本に対する思いの大半は富士山に注がれています。大学時代にやっていた山登りを数年前から再開し、NY近辺であちこちのピークを踏むにつけ、思い出すのは日本の山々の美しさ。そこで、今年の夏は日本に帰って富士山の登頂に挑戦しようと考えているのです。海外から見ていると、昨今の日本は、長い不況に閉塞感や財政赤字といった経済問題に加え、大震災や原発問題とたいへんな状況ばかりが目につき、我祖国はこの先どうなるのだろうと不安になる事もありますが、**常に気高く凛とそびえる富士山に思いを馳せると、何だか元気がもらえ、日本人としての誇りのようなものが蘇ってきます。**富士山は、最初は小さな火山だったのが、何度も噴火を繰り返すうちにだんだん大きくなり、ついには今のよう美しく雄大な姿となって、世界に名だたる名山になったのだそうです。**起こり来る事には全てに意味があり、耐えられない試練は与えられない**といいますが、きっと日本という国も、直面する様々な苦境に向かい合い、みんなで乗り越えることによって、強く、バランスのとれたよりよい国に成長し続けるのだらうと思っています。

加藤ひろ子 (旧 大石)

昭和43年卒 カルフォルニア

姑の納骨式にて日本ですので今回は失礼させていただきます。

(お皆様のご冥福をお祈りします。)

野中康子

昭和22年卒 コロラド州

今年は何も書かない事にしましたが“99の愛”を見て書かなくてはと思ひペンを取りました。日本が始めた戦争によって祖国日本に、そしてアメリカに居た日本人に苛せられた苦しみと痛みと侮辱は、耐えがたきを耐え涙と忍耐を持って乗り越えて来た日本人一世の歴史だと思います。かつてJFケネディが国連で“もし我々人類が戦争を減ぼさなければ、戦争は我々を減ぼすだろう。又、もし戦争が始まれば、世界は薪の山と化してしまうだろう”と語った言葉は真実です。今、イラクやシリアは正に薪の山と化しつつあります。東日本を襲った恐るべき津波は何を意味するのでしょうか。肉親を、家を、全てを失った人達の恐怖と悲しみ、苦しみ心の痛みはその事に逢わなかった私達には到底知りえるものではないと思います。アメリカに居る私達はその人々のために祈るしか出来ません。又、ジャップと罵られ蔑まれても〔当って砕ける、Go for broke〕と叫んでアメリカの為に命を捧げて散った442の2世部隊の若者たちの地に落ちた多くの種は今、実っています。戦争はお互いを敵にしまいます。アメリカに住む私達は日本とアメリカの二つの祖国のため、世界平和のために祈り有意義な人生を送りましょう。**艱難は忍耐を生み出し、忍耐は練達を生み出し、練達は希望を生み出す事を私達は知っているからです。**私は今、残り少なくなった自分の余生を少しでも有益に過ごしたいと願っています。若い精華会の皆様のこれからの活躍と発展を見つめながら、会報を楽しみに読ませて頂きます。

(ありがとうございます!)

流田恵子 (旧 入江) **新会員****昭和30年卒 カルフォルニア州**

私は、根っからのセンチテブスキ。アメリカ製の化粧品が全然肌に合わず、福岡の実家が資生堂を扱っていた事もあり、常時送ってもらっていたけれど面倒になって、ハワイの資生堂から化粧品を仕入れ、サンノゼ市に自分の店を出し一年経った頃に、資生堂本社が米国本土へ乗り込んできましたが、私が一番乗りのパイオニアで、今でも現役。以来、自分の信じる資生堂の化粧品を自分の2店で扱っています。私は家事、料理など苦手ですが、ビジネスが好きで今に至っています。

(電話でのインタビューにて書かさせて頂きました。)

Nelson とし子(旧 柳)**昭和42年卒 アイダホ州**

昭和30年代後半から40年代に筑紫女学園中学校と高等学校に通っていた頃は東京オリンピックが開催され、まさに日本が高度経済成長期をまっしぐらに突進中の頃であった。オリンピックのメダルの数は一位のアメリカが驚異の90個で3位の日本が29個それでもたいしたもの誇らしく思ったものだが、どうしてもアメリカやソビエトに勝てないのは食事情による体格の差で、肉主食の国と米主食の国の違いだと勝手に思いこんでいた。あの頃の日本人は、欧米人に比べたら一回り小さかった様。私も筑紫女学園水泳部に一時席を置き、地区大会に出場して飛魚マークの銅メダルをもらったんだがそれが我体力の限界であった我々が育った頃の日本は、高度成長期の煽りを受けて、大

気汚染や環境破損が猛威をふるい、水俣病や四日市喘息など公害病に侵された方たちの悲しい新聞記事が頻りに載っていた。日本の繁栄の影の犠牲者の方々が気の毒でならなかった。町々の至る所には毒々しい広告や看板やチラシが所狭しとあちらこちらに無秩序に貼られ、販売力を狙った物であろうが、実に汚らしくて子供心にどうにかならぬものかと思ったものである。それも月日が流れて、汚染されていた川や近海の漁場も綺麗になり、町並みは美しくハイセンスな日本に変わって行った。里帰りの度に、美しく変わる日本に驚かされている。しかし、あの頃の良き物も消えた。今は無き平和台球場前のお堀の淵に植えられていた柳と桜の美しい並木がとても好きで、通学時の電車の窓越しから眺めては素晴らしい春を満喫したのですが、今はもう伐採され無いと聞く。中学校の頃にマラソンを強いられて走った大堀公園も、今はヨ

ーロッパ風の石畳が敷き詰められて素晴らしい公園となっている。我々が住んでいた今川橋の海岸、百道の海岸、地方の浜も皆埋め立てられ、今はビルが林立しています。

我慢忍耐、秩序規律、行儀作法、努力勤勉、生きとし生ける物への思いやり、冷静、謙虚、感謝、人に迷惑をかけるなど親や学校から道徳倫理で教えられ育った私達日本人。あの頃は5月蠅く煩わしい親の説教も、寝ぼけ眼で聴いていた授業も知らず知らずのうちに身につけていったようである。東日本大震災の際にも、秩序を乱さない規律正しい日本人を**静かな威厳**と世界の人が驚異の目で褒め称えた。遠い昔から、日本人の心には仏教から由来したであろう道徳が根強く育まれていて、緊急時にはいつも的確な対処が出来る国民なんだと思う。誇らしい日本人、私もその一人の日本人として、先人の教えを守って日々努力を絶えず生活していこうと思います。

Raska 佳子 (旧 本田)**昭和37年卒 カルフォルニア**

私には二つの祖国があります。一つは生後20年間を純粋な子供の目から見て来た日本、そしてもう一つは妻、母、アメリカ市民としての45年を暮らしてきた大人の目から見たアメリカです。渡米後、主人と息子3人でバケーションを利用して南部を除いてほとんどアメリカ全州を旅行しました。アメリカの持つ大自然の美しさは日本と比較出来ない程の超スケールです。街の中でも自然が味わえます。私達が住んで居る町は川が近くて鷹や鷺、山鳩が庭に巣を造ったり、七面長が雛を連れて道の端を歩いて来て、表玄関の庭の木の上で一夜を過ごしたり狸の親子が夜に庭を荒らしたり秋にはリスが柿を食べにきます。こんなんびりとした状況の中なので、国民の人柄もおおらか率直でザックバラン、動物

愛好家が多く、人と人との触れ合いが馴染み易い国です。

又、会社の社交や個人の付き合いも日本と違って殆ど夫婦同伴です。こんなにも気候的にも環境的にも恵まれた住み易いカルフォルニアなのに、日本とアメリカとどっちに住みたいかと聞かれば、私も主人も戸惑わずに出来れば日本に住みたいと答えます。日本に帰れば、混み入った建物、昼夜も絶えない建設や街中の騒音を聴くと何故か不思議に、**里に帰ってきたなあー**という安堵を感じます。日本では、大自然のアメリカとは全く異なった自然の美と情緒を觀賞出来、四季を愛する心から生まれた芸術や文化、そして、長い歴史を通じての風習や習慣に富んだ古い日本、私はそんな日本が大好きです特に、英語の辞書にはない日本独自の敬語は日本人の謙虚

な心を表す非常に大切な言葉だと思います。それから云い忘れましたが、私は温泉が大好きです。三年ぐらい前から、アジア日系人のレスパイトケアーセンターでボランティアをしています。日本の唱歌や抒情歌を唄うと何も分からないでじっと空間を見つめている人の表情が和らぎ、或る人はこわばった手で調子を取られているのを見ると、来て良かったといつも**思います**。私はこんな和の心を大切に生きて行きたい**と思います**。去年の夏に、19歳になる孫娘を私が誇る日本を理解してもらえる為に、主人と6週間の日本旅行に連れて行きました。旅を終えて、シアトル空港に帰着した途端に、**“アメリカ人は日本人の謙虚さと丁寧さを見習うといいね”**との彼女のコメントに私は嬉しく心温まる思いでした。日本とアメリカの長所、短所はそれぞれの性格によって見る目も違いますが、両国

のそれぞれの長所を楽しめる私は、本当に幸せだと神に感謝しています。

Grande 百江(旧 武藤) **新会員****昭和37年卒 オハイオ州**

私は1972年憧れの国アメリカにやって来てから40年。今はアメリカが私の国です。この国のお蔭で離婚後、働きながら子ずれで大学に通い、修士号を修得、大学で日本語を教える事が出来ました。**目的を持って前進すれば、必ず実は実る事を体験しました。**とても日本では不可能な事です。**ふるさとは遠くにあります**、**正に、その通り**です。年を重ねる度に昔の思い出が懐かしさを増していきます。年に二度の里帰り、楽しみはやはり友人に会うことです。私の頭の中の日本と友人は永遠に元のままですから。